



モネ Monet

イマーシブ・ジャーニー 僕が見た光

Monet: I Can See the Lights - An Immersive Journey

名古屋初上陸!

光のアーティスト、モネの見た景色に没入する
体感型デジタルアート

4.9 [Wed.] → 6.22 [Sun.]

金山南ビル美術館棟 (旧名古屋ボストン美術館)

10:00 ~ 18:00

※入館は閉館 45 分前まで

主催: 「モネ イマーシブ・ジャーニー 僕が見た光」 名古屋実行委員会
企画: 角川武蔵野ミュージアム、公益財団法人角川文化振興財団
後援: 名古屋市、名古屋市教育委員会、愛知県、愛知県教育委員会、FM AICHI、ZIP-FM
協力: 一旗

「Essai sur une figure en plein air», 1919, Musée Marmottan Monet, Paris. 提供: Artobé/アフロ / 「Essai de figure en plein air», 1886, Musée d'Orsay, Paris, France © Bridgeman Images / 「Impression, soleil levant», 1872, Musée Marmottan Monet, Paris. 提供: akg images/アフロ / 「Nymphéas», 1914, Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman Images / 「Waterlilies, Evening», 1897, Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman Images / 「Les Nymphéas», 1916, Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman Images / 「Monet's Palette (wood)», Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman Images

モネ Monet

イマーシブ・ジャーニー 僕が見た光

Monet: I Can See the Lights - An Immersive Journey

鳥が歌うように絵を描きたい
I would like to paint the way a bird sings

ジャンフランコ氏と 角川武蔵野ミュージアムのタッグで 開発された「体感型デジタルアート」が 名古屋に初上陸!

フランス・パリに生まれ、印象派を代表する画家のひとりであるクロード・モネ(1840-1926)。移ろいゆく景色や時間を、柔らかな色遣いでキャンバスに描きとめ、生涯を通して数多くの作品を残しました。自然を愛し、太陽の筆捌きを敏感に捉えながら創作を続けたモネは、「鳥が歌うように絵を描きたい」と語っています。本展では、モネが人生で訪れた場所をなぞりながら、モネの見た景色、共に過ごした家族や友人、最後の住処であるジヴェルニーでの生活などを音楽と共に追体験します。

映像は、19世紀後半、サロン(官展)を離れ、作品発表の場を求めて仲間らと自主開催したグループ展(印象派展)に出展した作品《印象、日の出》からはじまります。この作品を見た批評家が辛辣に揶揄したことから、「印象派」という言葉が生まれたと言われています。印象派が生まれた19世紀のフランスで、モネはどのように生き何を描きたかったのか、画家の網膜にはどんな光が投影されていたのか。光の世界に包まれながらモネの気持ちを追体験してください。また、映像展示以外にも、モネを学ぶエリアや、モネを楽しむフォトスポットを設置。学びのエリアでは、印象派展の変遷や、モネが描いたテーマ、モネの手がけた「運作」の手法、そして彼が影響を受けたジャポニズムに至るまでを解説します。フォトスポットはジヴェルニーの「睡蓮の池」をイメージ。映像作品と合わせて、モネの描いた世界をお楽しみください。

印象派展を追体験

モネはもちろん、ルノワールからダガまで、第1回から第8回までの印象派展に出品された名画を実寸大で紹介。

チューブ絵の具の誕生

チューブ絵の具の発明によって画家たちはアトリエを飛び出し、戸外の光を描けるようになりました。

ジャポニズム

モネは浮世絵から多くの影響を受けています。浮世絵コレクションが飾られたモネのダイニングを紹介します。

印象派の画家の手法

印象派といえば光と色! 画家たちは絵の具を混ぜずに鮮やかな色を用いて描きました。その手法に迫ります。

フォトスポット モネの庭で写真を撮ろう!

モネの庭「睡蓮の池」をイメージしたスペースに太鼓橋を再現。ジヴェルニーの光を感じてください!



クリエイティブ・ディレクター ジャンフランコ・イアヌッツィ

イマーシブアートの先駆者として35年以上にわたり数多くの作品を作り上げてきたジャンフランコ。ゴッホ展、ダリ展でのコラボレーションに続き、今回は角川武蔵野ミュージアムとタッグを組んで制作したモネの新作を発表します。ワールドプレミアとなる本作品、ぜひご期待ください。



角川武蔵野ミュージアムの会場の様子



角川武蔵野ミュージアムの会場の様子

	一般 (大学生以上)	中高生	小学生
当日券	2,500円	2,000円	1,000円
前売券	2,300円	1,800円	800円

前売券は1月17日(金) 10:00~販売 詳細は公式HPをご確認ください。

※未就学児以下無料(保護者同伴必須)
※学生料金で入場の際には学生証をご提示ください。
※チケットの変更・払戻・再発行、転売不可
※障がい者手帳(身体障がい者手帳、精神障がい者保健福祉手帳、療育手帳)、小児慢性疾患手帳、被爆者健康手帳、特定疾患医療受給者証、特定医療費(指定難病)受給者証、デジタル障害者手帳「ミライロID」をご提示の方は、介助のための同伴者1名様は無料でご入場いただけます。ご本人様はチケットをご購入ください。

※展示会場および物販コーナー内の整頓を適正に保てるように、混雑時は入館者数の制限をさせていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
(前売券や当日券などのチケットを既にお持ちの方も対象)
※最新の注意事項等、ご来場前に必ず公式HP
(https://www.nagoyatv.com/program_event/monet2024.html)をご確認の上、ご来場ください。

公式HPは
こちらから



金山南ビル美術館棟 (旧名古屋ボストン美術館)

〈住所〉
〒460-0023 名古屋市中区金山町 1-1-1
(アクセス)
JR・名鉄・地下鉄「金山駅南口」すぐ